

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業

政策名	物流・産業		責任者	港営部 海務課長
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化		連絡先	052-654-7880
事務事業名	船席指定事務		連携課	港湾管理事務所
目的	対象(誰・何を)	船社・港湾運送事業者		事業 期間
	意図(どうい う状態にしたいか)	安全かつ効率的な荷役作業の実施及び施設の有効利用を図ります。		
概要	入港する船舶に対し、貨物、船型等に合致したバース指定及び係留位置の調整を行います。		根拠 法令等	名古屋港管理組合 港湾施設条例及び同 施行規則
活動内容	週3回のバース会議(船舶代理店等との調整)により入港船舶のバースを決定し、入港料及び係留施設使用料の調定業務を行います。なお、天候等により予定が常に変化するため、バースの最終決定は毎前日とし、24時間の当直体制により夜間、休日にも対応します。		実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
			関連 シート	

2 DO(実施)

コスト	単位	28年度	29年度	30年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	0	
人件費	千円	72,568	74,439	74,674	73,894	
合計	千円	72,568	74,439	74,674	73,894	

3 CHECK(検証)

指標名		28年度	29年度	30年度	中間目標 30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
適正な船席指定率 (%) (単年度管理型)	目標	100	100	100	100	適正な船席指定件数÷係留施設使用許可 件数	
	実績	100	100	100			
事業進捗状況(30年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
バース会議開催回 数(回) (単年度管理型)	目標	153	153	153	150	荷役作業の効率化、係留施設の有効利用 のためバース会議を実施	
	実績	153	153	153			
事業進捗状況(30年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	2名当直・24時間体制により利用者のニーズに応えるべく利用調整を行っており、常に適正な船席指定を実施しています。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 公共の係留施設においては、様々な形態の荷役作業が行われており、すべての利用者に対して不平等な扱いとならないよう本組合が適正な船席指定業務を行う必要があります。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○ 貨物の種類、荷役時間、本船喫水、その他多様な条件に応じた利用調整を行うことにより、利用者のニーズに応じています。					
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○ 本事務事業により、安全かつ効率的な荷役作業の実施及び施設の有効利用が図られていることから、上位施策である国際・国内海上輸送機能の強化に、貢献していると考えております。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 最少人員の当直体制としています。					

4 ACTION(取組)

課題	令和元年度以降の取組
西部(飛島・弥富)地区への倉庫等の企業進出が進んでおり、飛島ふ頭(岸壁98・99)や弥富ふ頭(岸壁6・7・88・89)において、在来船の恒常的な混雑が発生しています。また、平成30年12月から金城ふ頭1・2突間埠頭用地整備が開始され、埋立て(岸壁63、64、65、66、67)に伴う代替バースが整備されてないことから、金城ふ頭の在来船バースも混雑が発生しています。	貨物及び船型等を考慮し、利用者(船舶代理店、船社・港湾運送事業者)の意向を最大限にのみ取りながら、バース指定及び係留位置を調整し、混雑に対応していきます。